

涌谷町における

地域包括医療・ケアへの取り組み

2009.7.13

保健事業に関するヒアリング資料

涌谷町

町民医療福祉センター

センター長 青沼孝徳

町の概要

涌谷町の面積 82.08km²

涌谷町の人口及び世帯数(平成21年4月1日)

人口 男 8,776人

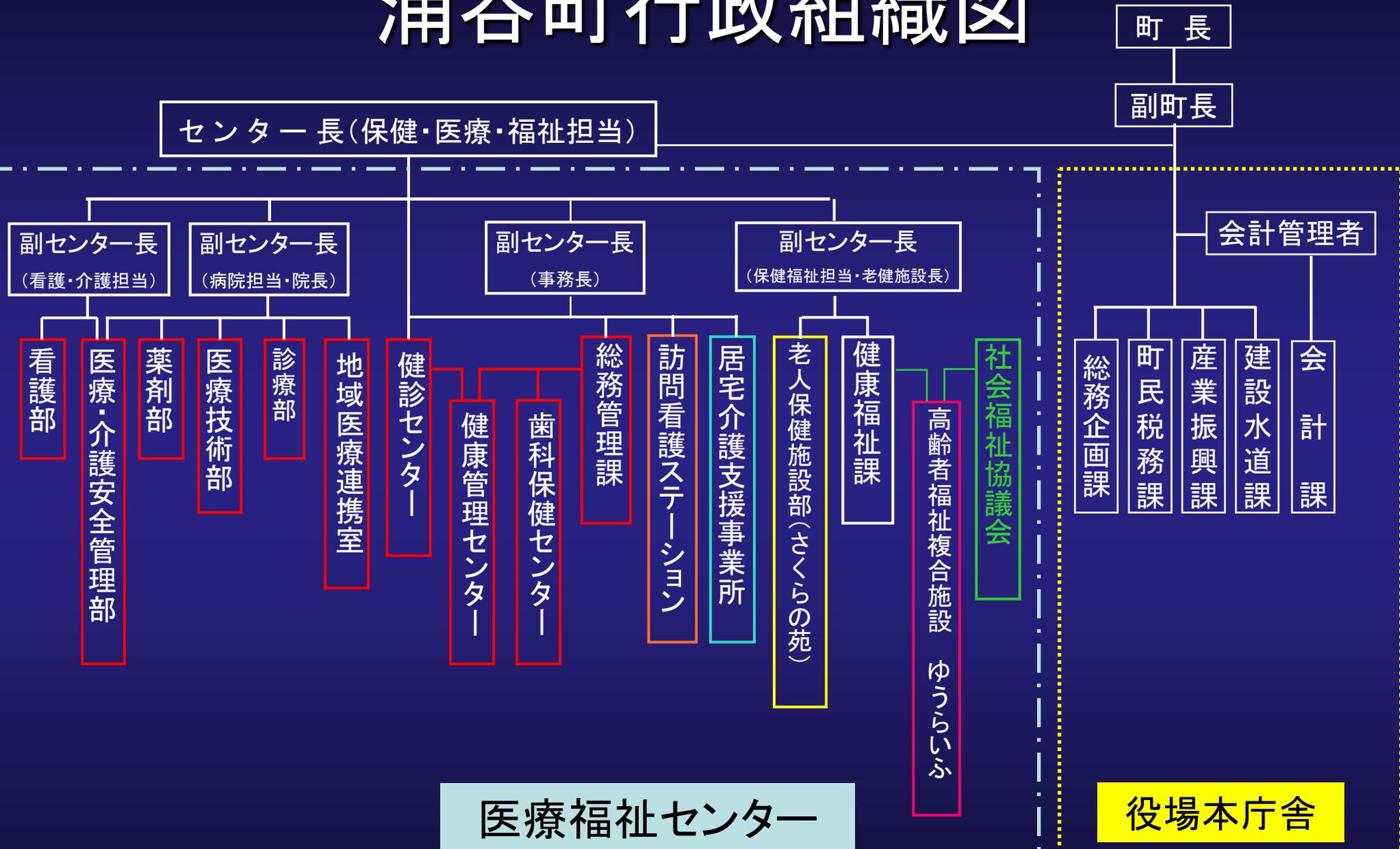
女 9,260人

合計 18,036人 5,818世帯

高齢化率の推移

年 度	H17	H18	H19	H20	H21
高齢化率	25.2%	25.6%	26.3%	26.5%	26.9%

涌谷町行政組織図



涌谷町における保健師の育成

所 属	人 数
国民健康保険病院 看護部	1 人
国民健康保険病院 健診センター	1 人
健康福祉課 健康推進班	7 人
健康福祉課 地域包括支援センター	3 人

○ 涌谷町では従来、保健師の臨床的知識・技術も含めた資質向上のため採用後2年程度は、病院勤務を経験させている。また老健施設、訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所など介護現場にも配置をしてきた。

疾病・患者の実態や実際の介護現場などを経験することによって予防の必要性を肌で感じ、効果的な予防活動に結びつけている。

○ また、地区担当制を敷くことによって概ね20世帯に1人委嘱されている健康推進員や地域との良好なコミュニケーションづくりができています。

傾聴や受容を心がけるなど、地域住民とのコミュニケーション能力が向上することにより、住民が保健師の存在を受け入れ、円滑な事業展開に結びついている。

涌谷町の保健事業（平成21年度）

目 標：町中が元気と笑顔にあふれ家族地域がふれあいともに歩む健康わくや

年 代	新生児期	乳児期	幼児期	学童期	思春期	青年期	壮年期	老年期			
	0ヶ月	1ヶ月から11ヶ月	1才～5才	6才～12才	13才～19才	20才～39才	40才～64才	65才～74才	75才以上		
各世代毎の目標	夢があり、失敗を恐れず何にでもチャレンジできる子どもに育つ					家族や地域とのふれあいを大切にし活力あふれる毎日過ごす		みんなに認められながら役割をもち、仲間とともにいつまでも若く朗らかに生きる			
保健事業のはたらき	健康増進（一次予防）					母子健康手帳交付事業		40才健康手帳交付事業			
生活習慣を見直し、健康的な生活に近づくことで発病を予防する。	7か月児離乳食相談		元気モリモリ食育セミナー ピッカピカ教室 のんのん教室		おやこ食育教室 児童セルフケア教室		ミネラルアップ教室 骨コツ教室		特定健診地区説明会		
	定期予防接種							企業に対する健康教育		さくら会	
								シニアクッキング		地区活動(健康教室・ミニデイサービス) 介護予防普及事業	
疾病予防（二次予防）	新生児訪問	乳児健診 2ヶ月（委託） 4ヶ月（町） 8ヶ月（委託） 1歳2か月児	幼児健診 1才6ヶ月 2才6ヶ月 3才7ヶ月		骨密度測定事業	妊産婦訪問 妊婦健診(14回)	人間ドック(40・45・50・55・60)	高齢者インフルエンザ予防接種 特定高齢者把握事業			
病気を早期に発見し、治療あるいは重症化しないように、生活習慣の改善を促す支援								骨粗鬆症検診(18歳～70歳女性) 成人歯科検診(30歳以上男女) 特定健診・特定保健指導 健康診査			
								肺がん検診(40才～64才)		結核検診(65才以上)	
								大腸がん・胃がん・肝炎ウイルス検診(40才以上)・前立腺検診(50～70才男)		及び検診に伴う訪問指導	
								子宮がん検診(20才～) 乳がん検診(30才～)			
介護予防								通所型介護予防事業(のびのび教室・いきいき教室) 訪問型介護予防事業			
自分らしい活動的な85歳を目指し、生活機能が低下しないようにする支援								歯ッピーアラカルト(口腔機能向上普及啓発・歯科相談・歯科訪問)			
								元気お達人教室(一般高齢者施策)			
								歯つらつ大学(口腔機能一般高齢者施策)			
								運動ひろば(一般高齢者施策)			
								介護予防ボランティア養成講座		認知症予防教室	
ケア・リハビリ(三次予防)	乳幼児発達訪問指導		虐待訪問指導		発達支援事業		精神障害者患者会(さつき会)・親の会(しらゆり会)支援		さつき会作業所グループ		精神障害者訪問指導
障害があっても自分らしくいきいき生活できる支援							共生の森健康相談				
							精神保健福祉相談				
											みやぎよろこびの会(がん克服者の会)
											心身障害児・心身障害者訪問指導
ネットワーク(連携づくり)			学校保健委員会								
											わくや健康ステップ21計画推進(推進大会・懇談会)
町民が主体的に健康を考え、互いに連携し実践していけるようになるための支援											食育推進計画の推進
											健康推進員協議会(地区組織育成)・食生活改善推進員活動
											自主グループ活動(やる気元気アップの会、若人の会)

ライフステージごとに健康づくりの 目標を立てている ！

新生児期～思春期（0～19才）

「夢があり、失敗を恐れず何にでもチャレンジ
できる子どもに育つ」

青年期～壮年期（20～64才）

「家庭や地域とのふれあいを大切にし活力あふ
れる毎日を過ごす」

老年期～（65才～）

「みんなに認められながら役割をもち、仲間と
ともにいつまでも若く朗らかに生きる」

健康推進員制度

町が実施する保健事業への協力や自主的な活動等をおおして地域における健康づくりの担い手となるものです。

昭和38年10月 保健協力員制度発足

昭和47年4月 食生活改善推進員制度発足

平成元年4月 健康推進員制度発足

(保健協力員制度、食生活改善推進員制度が発展的解消)

現在の人数 314人 (18.5世帯に1人)

- 主な活動
- ◎地域住民への情報の提供及び収集
 - ◎高齢者への支援、安否の確認
 - ◎地域健康教室等の自主開催
 - ◎町の健康づくり事業や健診等の支援協力





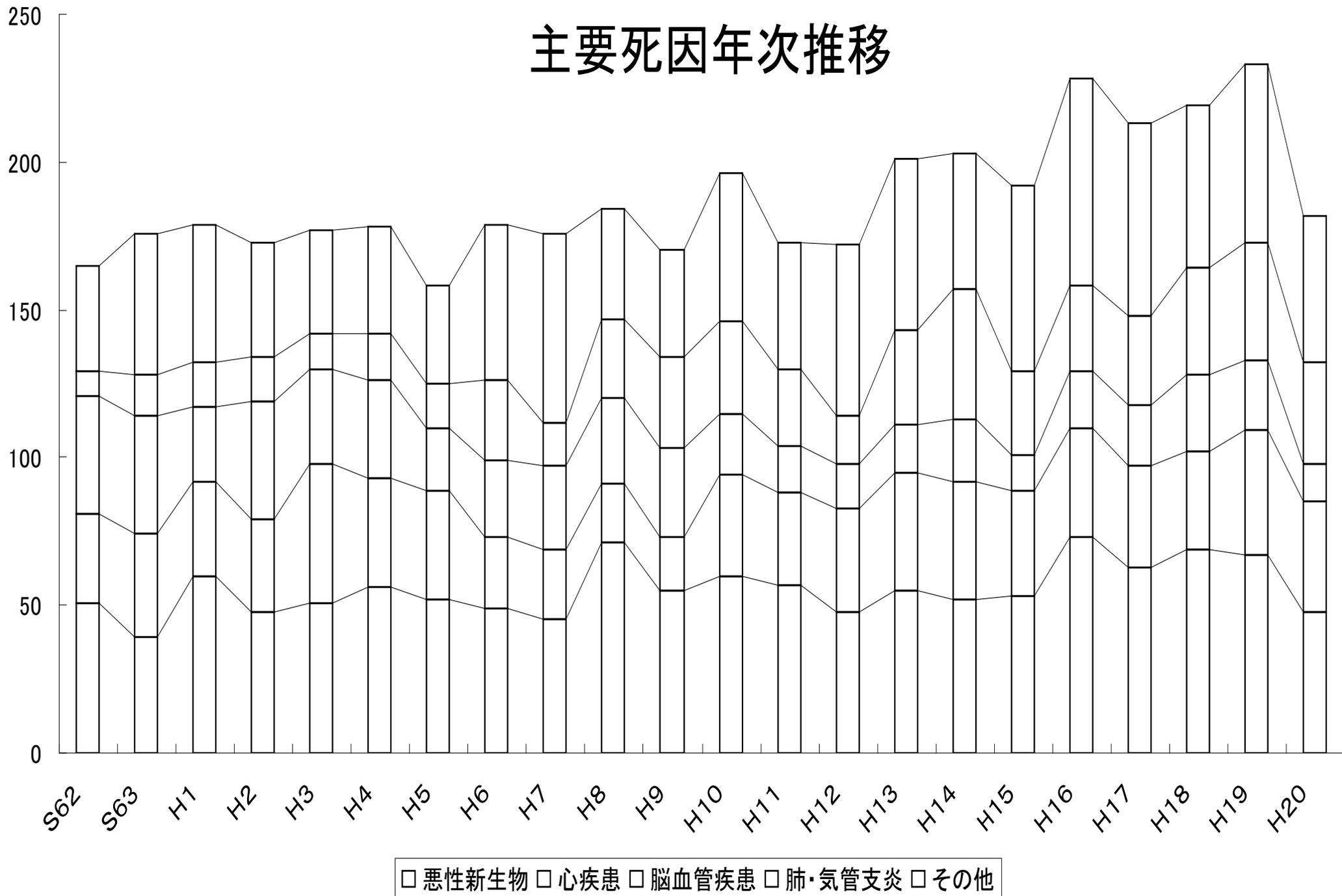
重要性の増加の割合

贈大森呉服店



データから見た町の健康度

主要死因年次推移



宮城県市町村の脳卒中の現状

脳卒中死亡率

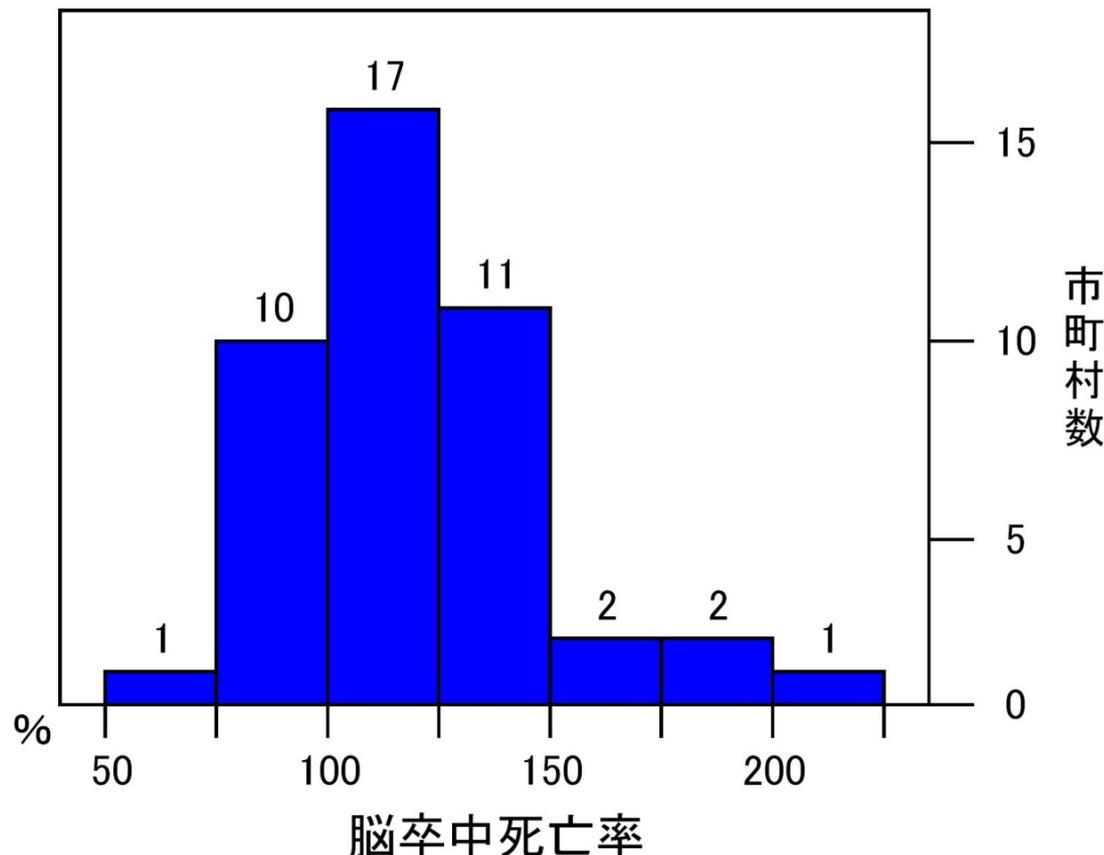
市町村の年齢構造を補正して
全国平均を100とした場合の
脳卒中リスクの相対比

宮城県：117

最低値：70（涌谷町）

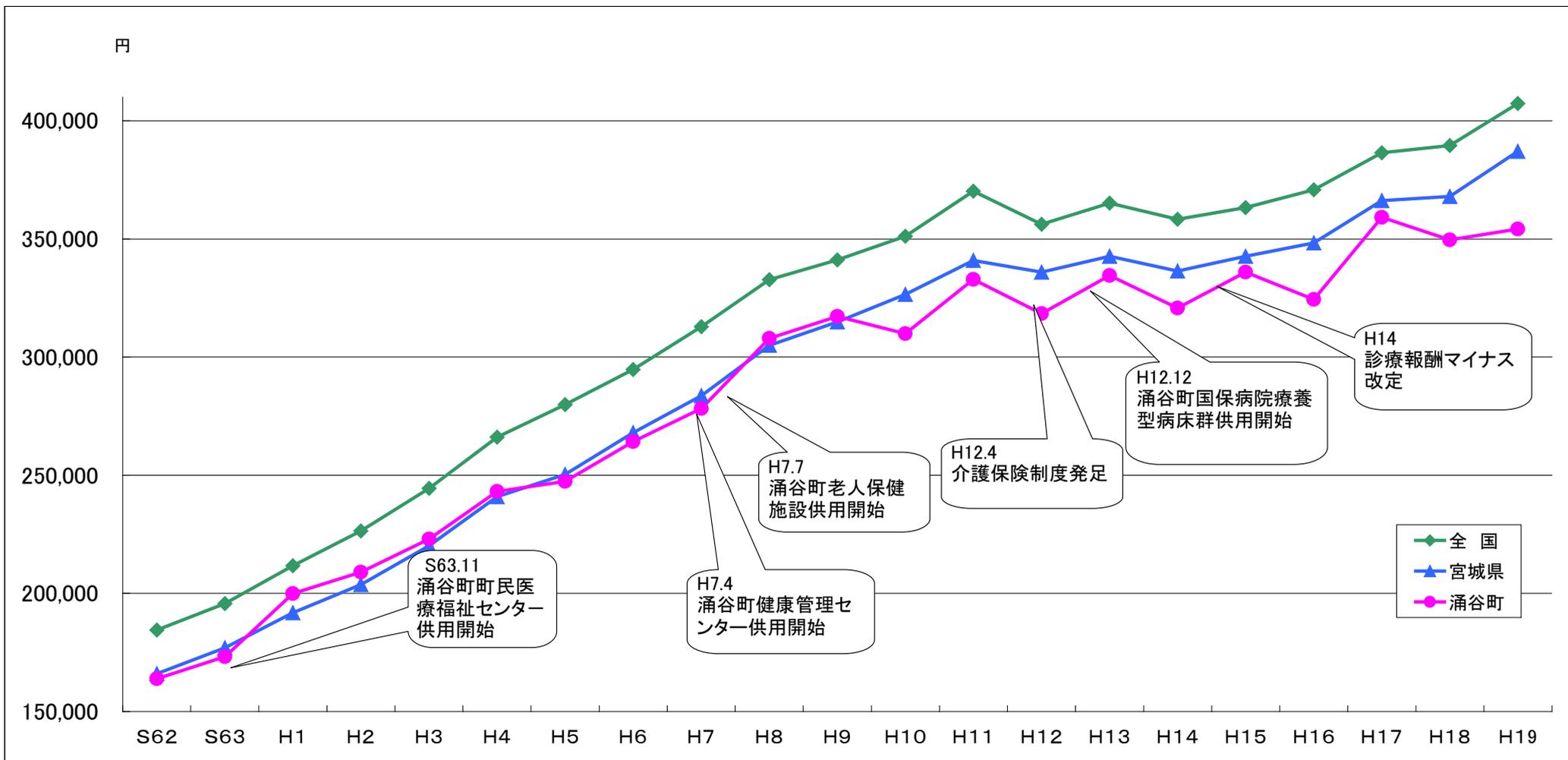
最高値：218（大衡村）

市町村ごとの脳卒中死亡率（平成15年）



総務省「人口推計」、宮城県「衛生統計年鑑」厚生労働省「人口動態調査」を基に東北大学・坪野教授作成による

涌谷町国民健康保険 医療費1人当費用額の推移(国・県全体との比較)



	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
全国	184,467	195,723	211,706	226,462	244,462	266,052	279,824	294,669	312,806	332,742	341,072	351,083	370,177	356,239	365,145	358,322	363,273	370,808	386,446	389,551	407,248
宮城県	166,065	176,987	191,800	203,727	220,126	240,873	250,360	268,038	283,665	305,019	314,873	326,554	340,853	335,930	342,673	336,413	342,670	348,241	366,163	367,931	387,087
涌谷町	163,880	173,140	199,904	208,976	222,982	243,093	247,390	264,278	278,223	307,958	317,239	309,918	332,859	318,354	334,539	320,795	335,950	324,385	359,084	349,538	354,179

※14年度は3～2ベースの費用額

(単位:円)

※全国・宮城県の数値は「国民健康保険の実態」市町村計による

地域包括医療・ケアを実践する涌谷町からの提言

○地域包括医療・ケアの展開が医療費抑制に有効！

今後も地域包括医療・ケアを展開する市町村が増えるよう、ぜひ政策誘導が必要と思う。

○健診は保険制度別ではなく住民全体を対象とした財政措置を！

地域は住民の共同体意識によって成り立っている。したがって地域住民を保険制度別に区分するわけにはいかない実状がある。もし住民全体を対象にすることが難しいのであれば、せめて国保被保険者と後期高齢者の保健事業は一体的に提供する体制が必要である。

○介護保険と医療保険の一体化を！

高齢者にとっては介護保険の施設でも医療が必要だし、医療施設でも介護が必要なため、制度としては一体である方が合理的。